

初教 KAWARABAN

かわらばん

第3号
2001.6.22

広島文教女子大学
教育学会
発行

面白さ三紹介 神原雅之さん

レポーター 朝日 佑子(18期生)
こんにちは。神原雅之先生。幼児教育コース卒業の朝日佑子です。メジャーは私に今田理恵さんがいます。(注)神原先生は他に、児童教育コース音楽専修生の卒業生にももっていらつしやいます。私たちが毎週金曜日の21:30に「神原研究室」で卒論のゼミを行っています。また始めて1カ月が経つていないのに2人とも悪戦苦闘しながら頑張っています。でも時には雑誌で時論を使ってもいいかもしれません。そんな時は3人でコーヒーでも飲みながら時論の楽しい時間を過ごしています。特に神原先生のお話が面白いですね。今度夏休みにはトミックを教えるためにアメリカに行く予定です。興味がある人に行きそなうはぜひ神原研究室を訪ねてみるというつもりです。



神原研究室にて(左から朝日さん、神原先生、今田さん)

文献の本を探すのにも一人二倍時間がかかります。「本当に自分に論文が書けるのだろうか？」と卒論のことを考えるたびに不安でいっぱいになります。でも、自分なりに努力をして、「一歩一歩」ゴールに向かって近づいていこうと思っています。大学生活最後の二年間を大切にそして楽しい時を過ごしながら...
なお、神原先生は、学内でも入試広報部長という超多忙な職務もこなされています。また早くからホームページも作成しておられ、楽しい話題満載ですから是非ともアクセスしてみてください。
URLは次のとおりです。
<http://www2.ocn.ne.jp/~shiba>
最後に神原先生、改めて「指導よろしくお願いします。」



ハナの花考



学部長 金舛 俊作
薔薇ノ木ニ薔薇ノ花
咲ク
ナニゴトノ不思議ナケレド

この詩は北原白秋の詩である。極めて単純明快な詩である。しかし、繰り返し読んでみると何となく味わいのある詩である。薔薇ノ木にバラの花が咲くのは極めてあたりまえのことであり、何の不思議もないことである。バラの木にボタンの花が咲いたり、ツツジの花が咲いたりしたら、これは大変なことである。毎年5月の頃になると、きまつてバラの花が咲く。これを「あたりまえ」と考えたのでは、この詩は何の感動も与えないのである。「どうバラの木にはバラの花しか咲かないのだらうか?」このように素材を思いがけず詩にこめられているのである。

さて、「薔薇」という言葉に「自分」という言葉を重ねて置き換えてみるとどうなるか? 「自分ノ木ニ自分ノ花咲ク、ナニゴトノ不思議ナケレド」となる。この詩は「自分」という一人の人間はかけがえのない存在である。私達は日々の生活の中で、自分という人間を大切に生きていく必要がある。自分らしさを発揮して勉学に、あるいは仕事に打ち込んでいろうか。いわんや自分らしさ、自分のよさに気が付き、自分というかけがえのない「木」に一杯の花を咲かせるべく努力しているだろうか。美しく咲き誇っているバラの花を眺めて自問自答する今日この頃である。

自分という一人の人間はかけがえのない存在である。私達は日々の生活の中で、自分という人間を大切に生きていく必要がある。自分らしさを発揮して勉学に、あるいは仕事に打ち込んでいろうか。いわんや自分らしさ、自分のよさに気が付き、自分というかけがえのない「木」に一杯の花を咲かせるべく努力しているだろうか。美しく咲き誇っているバラの花を眺めて自問自答する今日この頃である。



01.3第17期生編集部の1コマ

平成13年度 初教スタッフ(五十音順)

- 秋山 幹男
 - 新井 勝
 - 有馬 比呂志
 - 伊藤 裕康
 - 楠田 ひとみ
 - 浴野 雅子
 - 岡 利道
 - 金井 俊平
 - 川西 正行
 - 神原 雅之
 - 黒柳 宏義
 - 小西 忠男
 - 新宅 雅和
 - 杉山 浩之
 - 田原 穂積
 - 田村 進
 - 徳本 達夫
 - 原田 正治
 - 東 由水枝
 - 吉田 裕午
 - 河村 裕子
 - ※前年度退任 生住 昭人
- 「初教かわらばん」編集スタッフ
二十一年のメンバー
学芸会では
日々
(のんちがくがく)
休憩時には
ドリンクが忘れずに
何とも
愛すべき
仲間たち

突撃レポート!

「公民館主事は今」

財団法人広島市ひとまちネットワーク
山田悦子さんを訪ねて
[突撃レポート] 田原 岡

今回の突撃レポートは、初教十四期生(国語専修)の山田悦子さんです。山田さんの声も沢山取材させてもらいましたが、公民館長さんのお話もとても印象深かったのです。むしろそればかりがよくおわかりいただけると考え、以下、まとめてみた次第です。

五月半ば、いいお天気の土曜日。編集長と副編集長の二人で、安佐町飯塚にある安佐公民館にお邪魔しました。正午過ぎ、安佐公民館に到着。中川伸一郎館長さんと共に出迎えていただきました。事務所で、さっそく館長さんにお話をうかがいました。

「いや、彼女は、広島市内でも有名な人ですからねえ。」と、館長さんはきり出されました。「山田主事は、とにかく発想企画力がすごいんです。スタッフをへいへいと引っ張ってくれていきます。次々と行事も提案してくれれます。例えば去年やったんですが、子どもたちが太田川に頼むという講座。もう大好評!他にも地域の小中学校と連携しながらの活動もしています。そのコーディネーターとして、山田さんは飛びまわっています。交渉や調整がうまいんです。」

ここで、レポーターのコメント。山田さんは学生時代から精力的にボランティア活動に取り組みしていました。特に野外活動関係は群を抜いて経験豊富。そして、初教での学びをフルに生かし、学校の先生さんともたことのお付き合いもうまくやっています。地域の方々との交流についても同様です。



01.3第17期生編集部の1コマ

編集後記

ウツツのこころに...山田さんの取材はタンシカタン...
O...山田さん、お食事の用意が出来ましたので、どうぞおちろへ。と案内してくれました。その日は、山田さんが責任者をつとめている「ふるさと花木マップ」地域の草花は魅力いっぱい。この活動の五回目。最終回というので、マップ完成発表会と野草料理作り。試食会が行われていたのです。部屋に入ると、なんと野草料理フルコースが並んでいるではありませんか!参加者の輪に入れていただき、旬の味を堪能させていたただくと同時に、発表を聞かせていただきました。
山田さんは、終始なごやかに活動を取り引き、講師の先生、若手男女の参加者の引き立て役をつとめ、立派な仕事ぶりでした。山田さんは、最後に私たちに語りかけてくれました。「地域の方々に助けられています。そして、同僚にも恵まれました。中川館長をはじめ、先輩の西澤主事、後輩の川本主事、皆さんのおかげです。だから、こつと気持ちよく仕事が出来ています。」と、感謝の気持ちをあらわしています。両者の相乗効果が、安佐公民館を活性化させているのだと確信したのです。
あつという間に訪問の二時間が過ぎました。山田さん、おちろなまなまなと話し合います。そして、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



山田さん、お食事の用意が出来ましたので、どうぞおちろへ。と案内してくれました。その日は、山田さんが責任者をつとめている「ふるさと花木マップ」地域の草花は魅力いっぱい。この活動の五回目。最終回というので、マップ完成発表会と野草料理作り。試食会が行われていたのです。部屋に入ると、なんと野草料理フルコースが並んでいるではありませんか!参加者の輪に入れていただき、旬の味を堪能させていたただくと同時に、発表を聞かせていただきました。
山田さんは、終始なごやかに活動を取り引き、講師の先生、若手男女の参加者の引き立て役をつとめ、立派な仕事ぶりでした。山田さんは、最後に私たちに語りかけてくれました。「地域の方々に助けられています。そして、同僚にも恵まれました。中川館長をはじめ、先輩の西澤主事、後輩の川本主事、皆さんのおかげです。だから、こつと気持ちよく仕事が出来ています。」と、感謝の気持ちをあらわしています。両者の相乗効果が、安佐公民館を活性化させているのだと確信したのです。
あつという間に訪問の二時間が過ぎました。山田さん、おちろなまなまなと話し合います。そして、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



中川館長さんのお話は続きます。「公民館主事は、ありとあらゆることをしなければなりません。彼女は、それを実にこなさえています。そして、地域の、自然に声をかけられる人です。だから、地域の人の声を集めることが上手。吸い上げられています。だから、いい活動を組めるわけです。」